

日本合板工業組合連合会 令和3年度通常総会 祝辞

本日は、日本合板工業組合連合会令和3年度通常総会が開催されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

本日御参加の皆様方におかれましては、日頃より、森林・林業・木材産業行政に格別な御理解・御協力を賜っておりますことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

貴連合会におかれましては、これまでも国産針葉樹を原料とした構造用合板、型枠合板の開発等に取り組みられてこられ、国内生産合板の国産材使用割合は9割を超えるなど、我が国の森林資源の有効活用を通じた林業・木材産業の再生、地域経済の振興に御貢献をいただいております。また、近年においても、フロア基材における国産材の活用に向けた技術開発に御尽力いただくなど、国産材の新たな需要拡大に大きな役割を果たしていることに、深く敬意を表する次第です。今後とも需要に対応した製品の供給等に期待をしております。

さて、今年に入ってから米国等の木材需要増大等を背景に、木材需給を巡る情勢はめまぐるしく変動しておりますが、林野庁としては、中長期的な対応を見据え、国産材の安定供給体制の整備と効率的なサプライチェーン構築を推進しつつ、「伐って、使って、植える」という森林資源の循環利用、持続可能な森林経営の実現に取り組んでいきたいと考えております。

本年は、新たな森林・林業基本計画の検討が6月頃の閣議決定に向けて進められているところです。計画案では、森林を適正に管理し、林業・木材産業の持続性を高めつつ、成長発展させることで、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」も見据えた豊かな社会経済を実現することを目指しております。これに向けた取

組として、都市等における木材利用の促進や木材産業の競争力強化に加え、森林・林業・木材産業関係者が効率的なサプライチェーンを構築し、再造林など森林資源の持続性を踏まえつつ、相互利益の拡大を図ることなどを掲げております。

昨今は、持続可能な開発目標（SDGs）や ESG 投資への貢献、「新しい生活様式」への関心といった面からも木材利用に対する注目は高まっており、合板等を含めた木質系資材については、環境負荷の面においても非常に優れた資材であり、こうした需要に対応するにあたっては、貴連合会が大きな役割を担うものと期待しております。

最後になりますが、貴連合会の更なる御発展と、皆様方の益々の御健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年5月24日

林野庁木材産業課長 眞城英一